

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)平塚市学校給食センター	階数	地上2F
建設地	神奈川県平塚市田村9丁目23番地、25番地他	構造	S造
用途地域	準工業地域、第2種高度地区・工業専用地域、第4種高度地区	平均居住人員	140 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,500 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2023年2月8日
敷地面積	16,137 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社楠山設計
建築面積	6,999 m <sup>2</sup>	確認日	2023年2月9日
延床面積	9,069 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社楠山設計



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 2.3**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	123%
③上記+②以外の	50%
④上記+	50%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 3.3**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

##### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.3

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 4.0**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.7

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合	特にエネルギー、サービス性能に配慮した。	
その他	0	
Q1 室内環境	空気質環境に配慮した。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	維持管理に配慮した設計、部品・部材の耐用年数、空間のゆとり、設備の更新性を重視した。	Q3 室外環境 (敷地内)
Q3 室外環境 (敷地内)	標準的なレベルを目指した。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	太陽光発電の導入により設備システムの高効率化を図った。効率的運用に配慮した。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	部材の再利用可能性向上に配慮した	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	交通負荷抑制に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される